

## いわき農林事務所ニュース 2005年6月号

### 活動状況

#### ○いわき市宮牧野で放牧が開始されました！

いわき市宮の芝山牧野が4月28日、荻牧野が5月6日に開牧となり、いわき市及び隣接町村から牛84頭と馬16頭が放牧されました。

放牧される家畜は、事前に各種衛生検査と疾病予防ワクチン接種を済ませており、開牧式当日は、簡単な臨床検査と牛体ダニ駆除を行いました。その後、関係者が見守るなか好天に恵まれた広い牧野に放されました。

この放牧された家畜たちは自然豊かな環境で元気に駆け回り、11月中頃までの約半年間、「夏山冬里方式」により足腰の強い健康な家畜に育つことでしょう。

放牧期間中は事故や疾病の未然防止対策として、3週間隔で健康検査やダニ駆除を行い異常畜の早期発見と早期治療に努め、秋の開牧時には体も一回り大きくなって下牧することが期待されますなお、一般牧野4カ所についても随時開牧される予定となっています。



放牧前のダニ駆除

#### ○ 堆肥供給者リストが完成しました！

農家のみなさんに堆肥を活用いただくために、堆肥供給者リスト、堆肥利用のポイント、堆肥の見分け方等を掲載した「いわき市内堆肥供給者リスト」を作成しました。

近年、安全・安心な農産物や環境にやさしい農業への関心が高まっており、いわき農林事務所ではあらゆる農作物で環境にやさしい農業を推進しております。

特に米づくりにおいては、「水田農業改革アクションプログラム」において、農業や化学肥料をおおむね20%以上減らす「エコファーマーによる栽培」や、化学農薬の使用回数・化学肥料による窒素成分を5割以上削減する「特別栽培」の大幅な拡大を目標として推進しております。

農薬や化学肥料を減らしておいしい農作物をつくるためには、堆肥を利用して土づくりをすることが大切です。「いわき市内堆肥供給者リスト」は、支所、出張所及び公民館と各JA本・支店等で配布しておりますので、ぜひご活用ください。

## いわき市内 堆肥供給者リスト

堆肥は安全安心・健康づくりには重要な役割を担っており、環境にやさしい農業の推進に不可欠な資材です。堆肥を効果的に利用し、土質を改良し、作物の生育を促進し、農産物の品質向上を図ります。

**堆肥利用のポイント**

- 利用** ①堆肥の供給し、効果的に利用します。②堆肥の供給し、効果的に利用します。
- 品質** ①堆肥に含まれる成分が作物の生育を促進し、土質を改良し、作物の生育を促進し、農産物の品質向上を図ります。

○堆肥の特性

堆肥の特性は原料の種類により異なる場合があります。

原料の種類	堆肥の特性	注意
牛糞	◎ ◎	悪臭・病原菌の発生に注意し、土壌改良効果が期待できます。
鶏糞	◎ △	牛糞と比べると中粒粒状です。
馬糞	◎ △	鶏糞と比べると粒が細く、土壌改良効果が期待できます。
堆肥	◎ △	原料の安定性と、品質の安定性を確保する必要があります。
堆肥	◎ △	原料の安定性と、品質の安定性を確保する必要があります。

○各作物にたいしての特性、施用量の目安

作物	堆肥の施用	注意
水稲	1～2t	水田に施用する場合は、水田に施用します。
野菜類、果樹類	2t	水田の場合と異なり、乾燥して施用します。
アスパラガス	2t	乾燥して施用します。
果樹	1～2t	果樹の生育を促進するために、水田に施用します。
花き	2t	土壌の改良と、作物の生育を促進するために、水田に施用します。

【施用の量は、堆肥の種類や土壌の状態により異なります。】

### 完成した堆肥者リスト

## ○水稲直播栽培団地化進む！

いわき農林事務所では、低コスト・省力化による稲作生産を推進するため、地域ぐるみで水稲直播の団地化に取り組んでいます。

17年度は三和(みわ)町下市萱地区の約10haが団地化されるとともに、以前から団地化されていた三和(みわ)町渡戸地区他6地区についても直播面積が拡大され、いわき地方全体では約42haとなりました。

新たに三和(みわ)町下市萱地区では、直播栽培用に多目的乗用管理機械を導入し、直播面積の拡大とともに作業の省力化が図られました。

その他、加温出芽(しゅつが)法による出芽(しゅつが)促進技術や直播に適したほ場選びが確立されてきており、水稲直播の更なる団地化が期待されます。



下萱地区に導入された直播機械

## ○環境にやさしい農業の推進！

～性フェロモン剤を活用したナシの農薬削減防除

J Aいわき市梨(なし)部会では、ナシに性フェロモン剤を使用し、殺虫剤の散布回数(12回)を5回削減する防除体系に取り組んでいます。この取り組みは、環境にやさしい農業を推進するため、平成15～16年の展示までの成果により、17年度より市内全域で実施することとなりました。また、害虫の発生状況を把握し、的確に殺虫剤を削減するため、害虫の発生予察体制を梨(なし)部会内に設置し、生産者への情報の発信も併せて進めています。

さらに、今年度は、多目的防災網を活用した生物農薬の利用や殺菌剤の削減防除体系の試験など、さらなる農業の削減体系を検討していきます。

今後、このような取り組みを消費者へ情報発信し、消費者ニーズである「安全」「安心」な農産物生産への理解が進むことが期待されます。



性フェロモン剤使用状況

## トピックス

### ○田んぼの学校開校！ ～渡辺小で生き物調査と田植えを実施～

田んぼの学校が5月10日と5月27日に渡辺町で行われました。

5月10日は、「田んぼの学校」の第2回目行事として、渡辺小学校5年生21名が『生き物調査・草取り・ぼかし肥料まき』を行いました。当日は、応援団として、地元の方々にも協力していただきました。

『生き物調査』は、田んぼの“地表”と“地中”(深さ10cm程度)で、どんな生きものがどのくらい生息しているかを調べました。地表には「イトミミズ」「ユスリカ」が大量に確認でき、個体数を数えるのに苦労していたようでした。また、地中では同様の生きものが確認できたものの個体数が少なく、物足りない様子でした。

『草取り』は、300㎡弱の草取りを行いました。取った草を、最初は田んぼの端の方へ放り投げていましたが、そのうちに児童同士で投げ合ったりと、すっかり「水と土」に馴染んで作業に励んでいました。また、草取りしながらも、引き続き生き物を調査している児童もあり、『田んぼの生き物』に興味をもってくれたようでした。

『ぼかし肥料まき』は、発酵させた米ぬか等の肥料をまく作業ですが、児童達は、次回の『田植え』にむけて発酵独特のニオイの米ぬかと奮闘していました。



カエルのたまご発見！





看板設置しました！

5月27日は、「田んぼの学校」の第3回目行事として、『田植え・米ぬかペレット散布』を行いました。応援団として、またまた、地元の方々にも協力していただきました。田植えに先立ち、渡辺小学校5年生がみんなで協力して製作した「田んぼの学校」の看板を設置しました！！

『田植え』は、あらかじめ田んぼにつけた線に合わせて、うるち米・もち米の苗をそれぞれ500㎡ずつ手植えました。全員が田んぼの端に一列に並び、植えたら一歩前進、また植えたら一歩前進と、徐々に前へ向かいながら植えました。せっかくの機会ということもあり、5年生以外の児童も少しずつ田植えに参加しました。

低学年の児童は、植えたそばから苗を踏みつけるなどおぼつかない“足つき”でしたが、一人前の農家のような顔をして作業を行っていました。

除草用として行った『米ぬかペレット散布』は、5月10日にまいたぼかし肥料のような独特のニオイがなく、容易にまいていたようでした。応援団となった大人たちも、久しぶりの手植えを楽しみましたが、翌日は腰が痛かったのでは？！

この「田んぼの学校」は、今年度10回程程度の行事を予定しており、次回は、6月17日の『草取り・メダカの放流』です！！。

#### 田んぼの学校

田んぼの学校は、田んぼや水路などを遊びと学びの場として活用することで、農業農村整備事業で整備した農地や土地改良施設へ理解を深めてもらうとともに、農村の持つ多面的な機能を通して環境に対する豊かな感性を磨いてもらうことをねらいとしています。県内では、渡辺小を含め4校が開校しております。



一列になって田植え！

○いわき植樹祭が開催されました！

5月21日、身近な森林のひとつである里山林の再生を目的に、三和(みわ)町上三坂運動広場で第38回いわき市植樹祭が開催されました。この植樹祭は、いわき市、いわき市緑化推進委員会の主催で行われ、一般公募の参加小名浜海洋少年団や地元参加者などあわせて約210人が参加しました。

式典では、小名浜海洋少年団が「豊かな海をつくるために緑を守り、育てることに努めます」と誓いの言葉を述べました。

また、記念植樹として同広場に市の木「クロマツ」を、四家啓助市長、地区代表や同少年団員などが植栽しました。引き続き、一般植樹として、地元でよくみられるヤマザクラ、ヤマボウシ、ヤマツツジなど約500本を、参加者全員で近くの共有林に植栽しました。

参加者らは、植栽した樹木が元気に成長することを願って、1本ずつ丁寧に苗木を植えていました。

最後に、田子元彦上三坂行政区長が植樹した木々の管理を地域で行うことを宣言しました。



小名浜海洋少年団による誓いの言葉

◀ もどる

すすむ ▶

[ [▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#) ]